

15 人事に関する事項

1 教育職員計画

(単位：人)									
学 部	2013年度				2012年度 (11/1現在)				備 考
	専 任	任期付	特 任	客 員	専 任	任期付	特 任	客 員	
文 学 部	70	0	37	12	70	0	37	12	※1
経 済 学 部	50	0	3	6	44	0	1	3	
経 営 学 部	43	0	3	5	43	0	4	5	
法 学 部	44	0	1	6	43	0	1	6	
理 工 学 部	86	5	1	1	85	5	1	1	※2
社 会 学 部	56	0	5	2	54	0	6	2	※3
国 際 文 化 学 部	35	0	2	5	36	0	1	2	
政 策 学 部	22	0	4	5	23	0	3	5	
短 期 大 学 部	13	0	10	3	13	0	11	3	
法 務 研 究 科	14	0	2	16	14	0	3	17	
そ の 他	5	2	0	0	4	0	0	0	※4
合 計	438	7	68	61	429	5	68	56	
※1 専任：学長1名を含む（2012、2013年度）、 特任：実習助手を除く（2012年度1名、2013年度1名） ※2 専任：実験実習講師・助手を除く（2012年度16名、2013年度16名） ※3 特任：実習助手を除く（2012年度6名、2013年度6名） ※4 保健管理センター所属（2012年度1名、2013年度1名） 龍谷ミュージアム所属（2012年度3名、2013年度6名）									

2 事務職員数等計画

(単位：人)		
	2013年度	2012年度 (11/1現在)
事務員	246	245
医務員	4	4
理工学部実験実習講師・助手(専任)	16	16
文学部実習助手(特任)	1	1
社会学部実習助手(特任)	6	6
小 計	273	272
事務系嘱託	147	139
技能系嘱託	38	36
嘱託医師	7	7
RECフェロー	3	3
高大連携フェローA	1	1
アドバイザー	3	3
小 計	199	189
合 計	472	461

3 事務職員の人事制度改革

大学に対する社会からの要請が高度化・多様化する中、本学事務職員は、その構成員として「自覚」と「誇り」を持ち、常に社会から期待・信頼される大学創りに貢献することが求められている。このような認識に立ち、第5次長期計画を推進・実現するため、2009年度から新人事制度

がスタートした。これまで、2009年度に資格制度、給与制度、研修制度及び特定職務型スタッフコース制度を実施し、2011年度に全専任事務職員を対象とした評価制度を実施してきた。

人事制度の運用において重要なことは、諸制度が全体としていかに有機的に関連し機能しているかにある。評価制度により自己の能力を把握し、研修や自己研鑽の成果を職務において発揮することによって、資格が昇格し給与が昇給するといった循環の構築が、新人事制度のめざすところである。今後も、新人事制度全体の効果とそれぞれの人事諸制度の各機能の点検を人事制度の目的に照らしながら評価・改善し、機能を高めていく。2013年度については、主に以下の制度のさらなる充実を図る。

○評価制度

2011年度から全専任事務職員を対象に実施している評価制度については、評価制度の目的である、個々の職員の能力・資質（強み・弱み）を評価・把握することが達成できているかどうか、常に検証しながら、引き続き、事務職員の資質向上に向けた制度の充実に努める。

○研修制度

これまでの研修制度を活かしつつ、自己のキャリア形成に努め、その上で事務組織全体の力量を高めることを目的として、研修制度をより充実させ、資格制度に応じた研修プログラムを構築する。「海外高等教育研修」については、新たに事務職員を選抜し、2014年度の現地研修実施をめざした事前研修を開始する。このほか、メンタルヘルスに関する研修やハラスメントに関する研修などについても引き続き実施し、職種にかかわらず必要な知識の修得に努め、次世代を担う人材育成に向けた制度の充実を図る。